

入生田菌類誌資料 No.024

タブノキ白粉病菌

Asteroconium saccardoi Syd. & P. Syd.

宿主：タブノキ *Machilus thunbergii* Siebold & Zucc.

子囊菌門 Ascomycota 綱以下の所属未確定 Incertae sedis

供試標本

KPM-NC0017240, 2010年4月9日, 入生田丸山林道, 佐々木シゲ子採集.

肉眼的特徴

新葉の裏の、葉縁や葉脈沿いに、膨らんだ塊が形成される。橙茶色の膜が破れ、白粉状の菌体(分生子塊)があらわれる。

顕微鏡的特徴

分生子層は厚さ 0.30-0.48 mm。分生子柄は、分生子層表面に並んで形成され、長さは 13.1-52.8 × 1.5-3.1 μm、無色である。分生子は、18.4-22.8 × 6.8-10.0 μm、テトラポット形で、中心部に大きな1個の油滴があり、無色である。

ノート

不完全菌類に属し完全世代は未詳である。日本ではタブノキ、ホソバタブノキ、クスノキのみに発生が知られる。

文献

岸 國平編, 1998. 日本植物病害大事典. p.1102. 全国農村教育協会, 東京.

小林享夫・勝本 謙・我孫子和雄・阿部恭久・柿島 眞編, 1992. 植物病原菌類図説. p.428. 全国農村教育協会, 東京.

担当：佐々木シゲ子
監修：小林享夫



図1. 葉裏の病徴.

図2. 葉縁や葉脈上にひろがる病徴.

図3. 分生子塊.

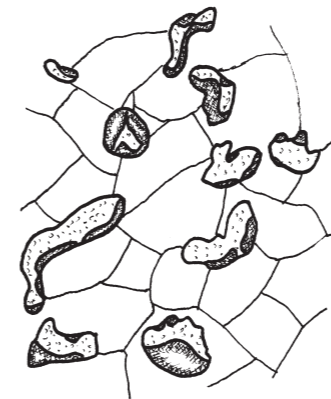


図4. 分生子塊.

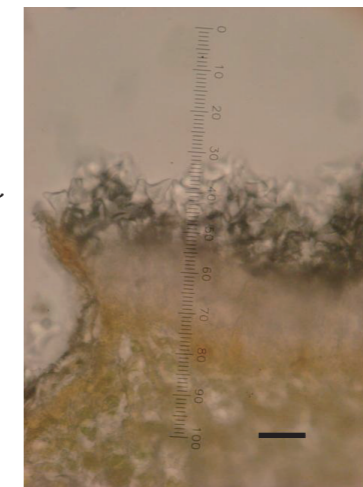


図5. 分生子層断面. bar: 100 μm.

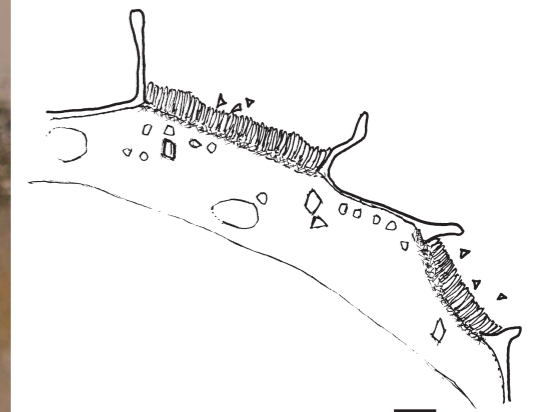


図6. 分生子層断面. bar: 100 μm.

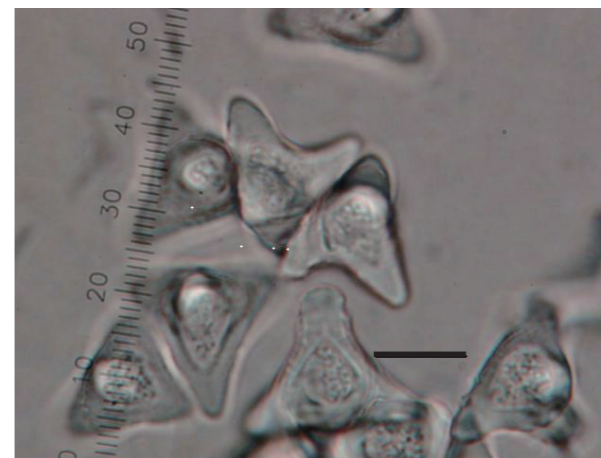


図7. 分生子. bar: 10 μm.

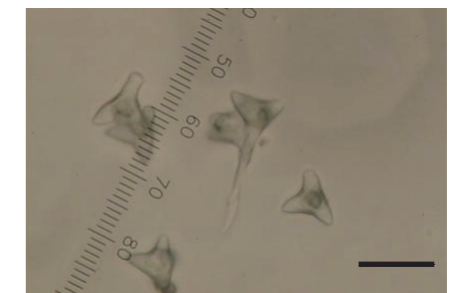


図8. 分生子柄の付いた分生子. bar: 25 μm.

